

## 平成 18 年度「おたっしや調査」疾病確認調査結果概要

### 1 調査目的

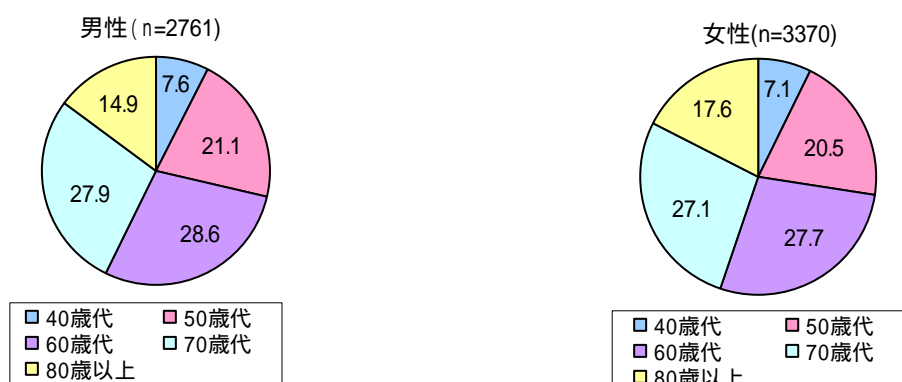
「おたっしや調査」は、疾病と生活習慣等との関連を明らかにし、健康寿命を延ばすための基礎資料を得ることを目的に平成 15 年度から実施している。平成 19 年度は、平成 16 年 1 月から平成 19 年 1 月の間に「脳卒中」「狭心症」「心筋梗塞」および「骨折」の発症状況を確認する調査を行った。

### 2 調査対象者

「おたっしや調査」へ協力を承諾した鴨川市市民（平成 15 年度に 40 歳以上）のうち平成 19 年 2 月 1 日時点で鴨川市に在住で、生存を確認できた 6,141 名（男：2767 名、女：3374 名）を対象とした。

調査対象者のうち生年月日不明のもの 10 名を除いた年齢構成割合を図 1 に示した。構成割合は男女で大きな差はなく、ともに 60 歳代と 70 歳代で半数以上を占めていた。

図 1 対象者の性・年齢構成（％）



### 3 調査方法

- 1) 配布・回収 自記式郵送
- 2) 調査期間 平成 19 年 2 月から 3 月
- 3) 調査項目 脳血管疾患・心疾患の発症の有無・疾病名・発症時期および骨折した部位・骨折した時期
- 4) 医療機関確認 同意が得られたものについては医療機関で確認を実施  
(医療機関確認調査期間：平成 19 年 7 月から 8 月)

#### 4 調査結果概要

##### 1) 回答状況

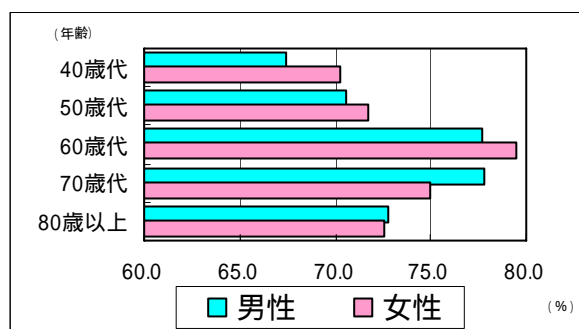
有効回答は 4584 通で回収率は 74.6%であった。回収率に男女の差はみられなかった。男女別の回収率・発症者数を表 1 に示した。

表 1 回収率・発症者数(性別)

	発送数	回答数	回収率(%)	発症者	発症者/回答数(%)
男性	2767	2063	74.6	208	10.1
女性	3374	2521	74.7	220	8.7
総数	6141	4584	74.6	428	9.3

図 2 年齢階級別回収率

年齢階級別による回収率を図 2 に示した。各年齢階級とも 65%以上の回答が得られた。男性は 60 歳～70 歳代で回収率が高く、女性は 60 歳代が最も高かった。



##### 2) 疾病の発症状況

発症年が平成 16 年以前の者も含めて疾病発症状況の集計を行った。また、生年月日と発症年から発症年齢を割り出し、疾患別に集計した。

調査対象疾病を発症した人数は 428 名で、回答者に対する発症率は 9.3%であった。発症した率は男性 10.1%、女性 8.7%で男性の方が若干高かった。図 3 に本人回答による発症時年齢別の各疾病の発症数(人数)を示した。

男性では脳血管疾患の発症が 90 名と最も多く、70 歳代はで急増し 36 名と他の年代より発症数が突出していた。心疾患発症者は 50 名で 40%が 70 歳代で発症していた。骨折は 59 名で他の 2 つの疾患と違い 60 歳代での発症数が最も多かった。女性では骨折が 128 名と最も多く、60 歳から 70 歳代で 78 名と骨折者全体の 70%近くを占めていた。また、女性は 3 つの疾患すべて 70 歳代が最大人数となっていた。

図 3-1 発症状況（男性）

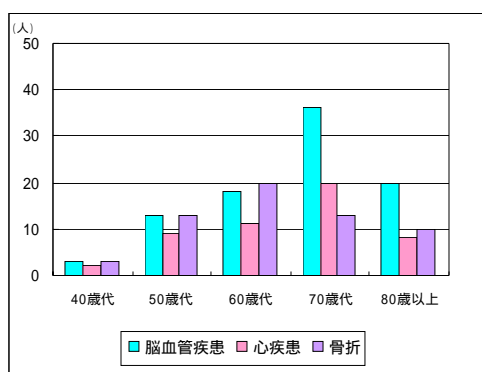


図 3-2 発症状況（女性）

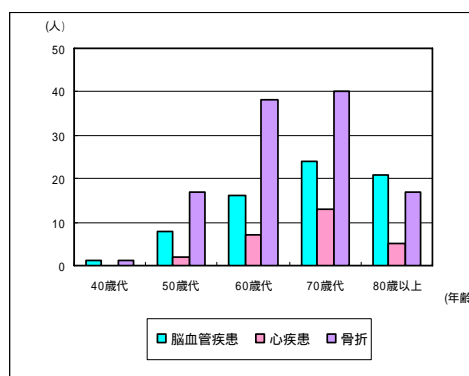


図 4 に調査時年齢の各疾病の回答者割合を性別に示した。各疾患とも年齢が上がると割合が大きくなっている。脳血管疾患、心疾患は男性が各年代とも女性に比べ発症する割合が大きくなっている。骨折については、50 歳代までの割合は男性がやや大きいが男女の差は小さく、60 歳を超えると女性の割合が大きくなっていた。

図 4-1 罹患経験状況（男）

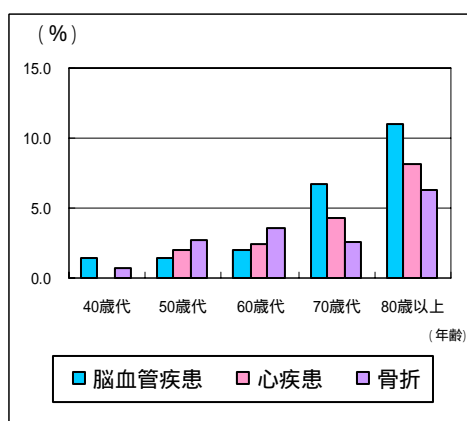
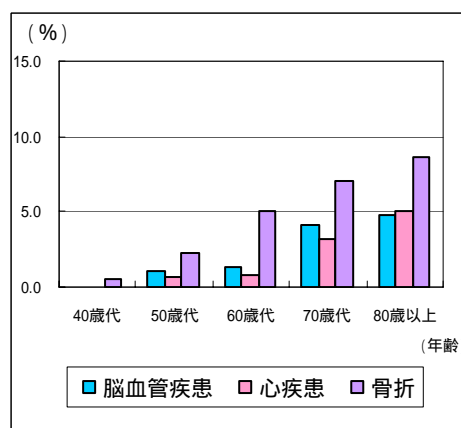


図 4-2 罹患経験状況（女）



### 3) 疾患名と発症年齢

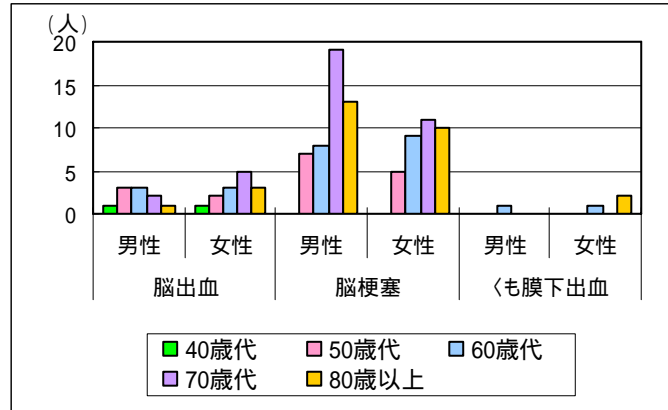
#### (1) 脳血管疾患

発症年齢不明者はいなかったが、疾患名不明者および無記入は 50 名（31.3%）であった。疾患名不明者、無記入を除いた脳血管疾患発症者の内訳（重複含む）を図 5 に示した。脳出血 24 名（男性 10 名、女性 14 名）、脳梗塞 82 名（男性 47 名、女性 35 名）、くも膜下出血 4 名（男性 1 名、女性 3 名）で脳梗塞の発症が一番多かった。発症年齢をみると脳梗塞の発症は男女ともに 70 歳代が最も多かった。くも膜下

出血は発症者が少なく特徴は見られなかった。脳出血の発症者は少ないが、各年代で発症していた。

女性では70歳代での発症が最も多かったが、男性では70歳代よりも50～60歳代での発症が多かった。

図5 脳血管疾患（発症年齢・性別）



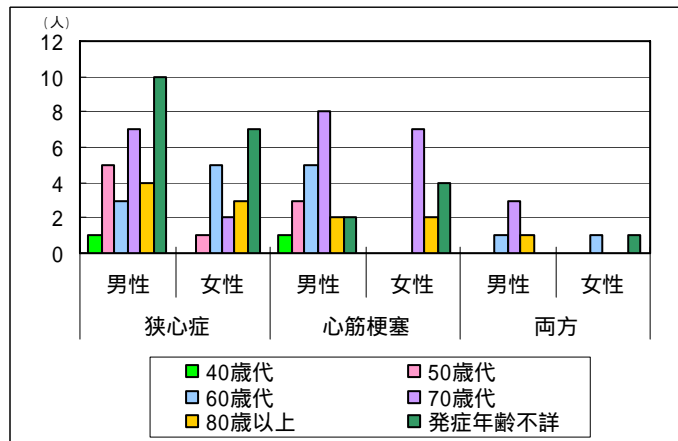
(2) 心疾患

発症年が未記入等のため発症年齢が不詳となる回答が120名中40名(33.3%)と3分の1にみられた。また、疾患名不明、記入無しが31名(25.8%)であった。

発症年齢不明を除いた心疾患発症者の内訳(重複含む)を図6に示した。狭心症31名(男性20名、女性11名)、心筋梗塞28名(男性19名、女性9名)、両方と回答した者が6名(男性5名、女性1名)であり、男性の発症が女性の2倍以上であった。男性は40歳代から発症があるのに対し、女性は40歳代で発症はなく、50歳代も狭心症で1名と若年の発症は男性より少なかった。他の心疾患・疾患名不明は15名(男性9名、女性6名)であった。

心疾患においても脳血管疾患と同様に70歳代の発症が多かった。

図6 心疾患（発症年齢・性別）



### (3) 骨折

骨折時年齢不明者は20名(10.4%)であった。骨折部位不明者は無かった。

骨折時年齢不明者を除いた内訳を図7に示した。骨折の発症数を男女で比べてみると女性は男性の約2倍であり、60歳代、70歳代での骨折発症数に男女差がみられた。年齢が高くなると肩・上腕の骨折が多くなっていった。男女別に骨折部位を比較すると、女性は肩から手首にかけての骨折が多く、男性は部位による差はそれほど大きくなかった。全体的にみると70歳代での骨折が多かった。特に女性は50歳代から骨折する人数が多くなっていった。

図7-1 骨折(骨折時年齢・性別)

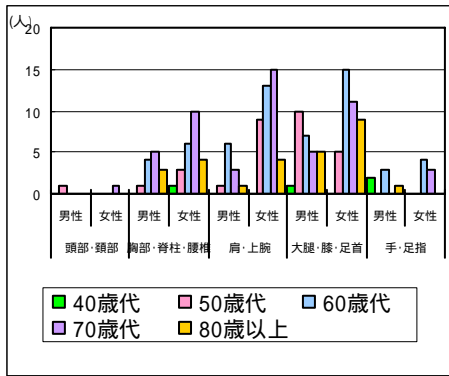
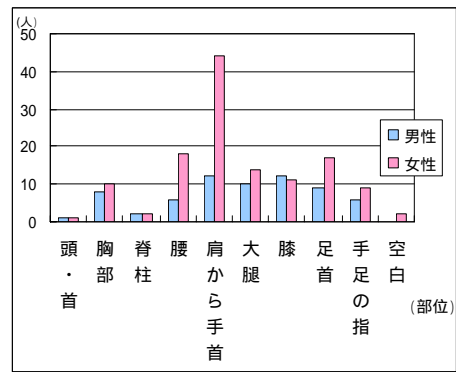


図7-2 骨折部位(性別)



### 4) 医療機関による確認

#### (1) 医療機関での確認の承諾状況

医療機関確認について承諾の得られた者は、191名(男:95名、女96名)であり発症者の44.6%であった。承諾者の年齢構成を図8に示した。また、図9には年代別に発症者に対する医療機関承諾者の割合を示した。

図8 医療機関確認性・年齢構成

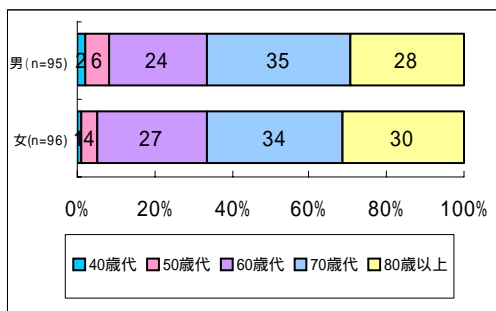
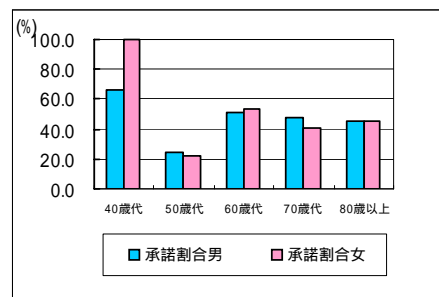


図9 年代別承諾者割合

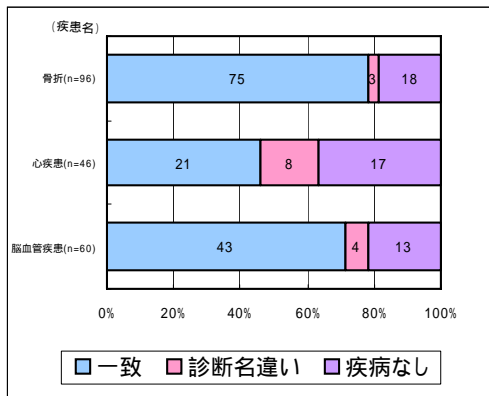


確認承諾者は男女ともに60歳代以上で90%以上を占めていた。60歳代以上の各年代の承諾割合は40%から50%で同等の割合であり、男女の承諾者割合の差はほとんどなかった。対象人数が少ないが50歳代での承諾者の割合が最も低かった。

(2) 本人の回答と一致

確認承諾者の回答と医療機関の疾病名の一致について図10に示した。本人回答の疾患別承諾割合はそれぞれ、脳疾患が37.5%、心疾患は40.0%、骨折では49.5%であった。本人申告と医療機関との診断名の一致については心疾患の場合50%以下であり、全体の

図10 医療機関確認



心疾患診断名の相違は医療機関では狭心症と診断しているが、本人は心筋梗塞と認識しているものが6名だった。脳血管疾患は71.7%が医療機関の診断名と一致していた。骨折は78.1%が医療機関の診断と一致していた。骨折の診断名違いは骨折部位の違いであった。

医療機関で確認した人の発症年齢について図11に示した。女性における骨折は60歳代が最も多くなったが、発症者全体の回答と同様の傾向を示した。

図11-1 発症年齢(男)

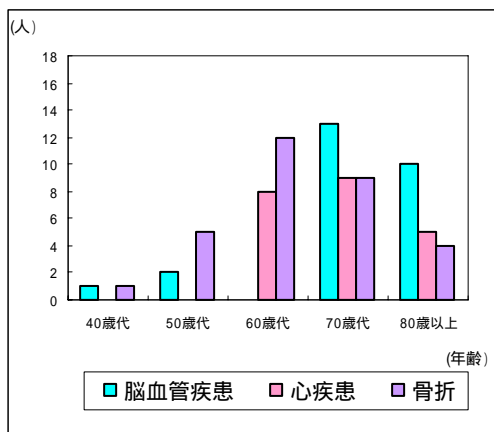


図11-2 発症年齢(女)

